

すべての人のすべての思いを形にする住宅検索サイト



DX Builders Network が運営する住宅検索サイト「スマログ」は、全国から集めた住宅の画像の中から、好きなイメージを自分専用のマイボードにピン留めしてストックできるサービスです。

あなたの理想のマイハウスがインターネット上で作れるシミュレーション機能もご用意！

スマログはこちらから↓



住まいのスマログ 検索



DX Builders Network について

DX Builders Network は、大きく変わる環境変化に対して常に最適な住まいのご提案を目指し、全国の工務店が新たな技術やデザインを創みだすために集結した建築集団ネットワークです。

「1度目から後悔しない家づくり」

第2版

著・発行元	DX Builders Network
お問い合わせ先	DX Builders Network 事業本部 (株式会社サンクスホーム)
E-mail	info@dxbuilders.jp

※無断転載・複製を禁ず。

1度目から 後悔しない 家づくり

1000人の施主様に
聞いたリアルな声を公開！



絶対後悔したくない方へ
家づくりの
バイブル





CONTENTS

01	生涯のライフスタイルを描くことから始める	04
	1. ライフスタイルの描き方とは	
	2. ライフスタイルを描くことで失敗しない家づくりにつながる理由	
02	できるだけコンパクト・窓を少なく・家を四角に・でもおしゃれ	07
	1. できるだけコンパクトに	
	2. 窓を少なく	
	3. 家を四角に	
	4. 小さく、窓を少なく、四角にした上で、おしゃれにするためのポイント	
03	吹き抜け・バルコニー・和室・大きな窓、それ全部不要です	09
	1. 吹き抜けは不要！？	
	2. バルコニーは不要！？	
	3. 和室は不要！？	
	4. 大きな窓は不要！？	
04	LDK ではなく LK という住み方、マスターリビングという考え方	13
	1. 家は 3 回建てで納得できる、という理由	
05	総コスト・生涯コストという考え方を持つ	14
	1. 光熱費	
	2. メンテナンス費用	
	3. 固定資産税	
06	断熱等級と耐震等級の意味だけは絶対に理解しておこう	17
	1. 断熱等級とは	
	2. 耐震等級とは	
	3. 断熱等級と耐震等級について理解しておくべき理由	

07	ZEH では無い SES(セーブエネルギー)という考え方を持つ	20
	1. ZEH とは	
	2. SES (セーブエネルギー) という考え方	
08	小さな家で生活の質を上げることが後悔しない最大の秘訣	22

概要

人生に一度の大きな買い物、とよく聞く言葉です。

しかし一方で、住宅は 3 回建てないと納得できるものができない、とも言われています。

多くの方は 3 回も家を建てる資金もないのが現実であり、

本来 1 回目で納得できる・後悔しない家づくりができればよいわけです。

今回は、初めての家づくりにおいて後悔しないための鍵として、

8つの項目をお伝えしていきます。

これは、今まで 1000 人の施主様に聞いてみて、そして家づくりに実際に

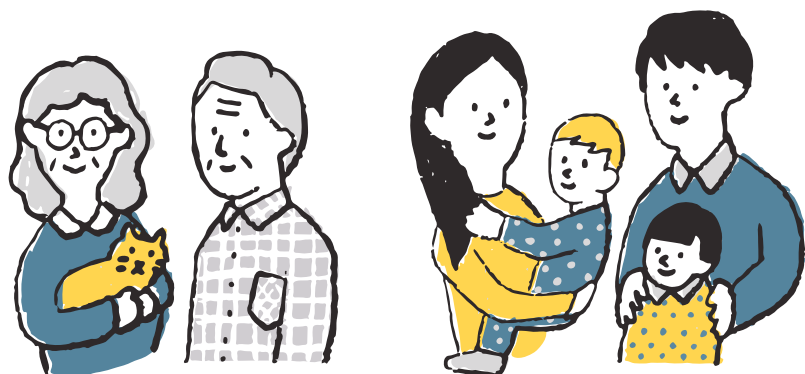
携わってきた経験を基にわかった、重要なことを 8 つにまとめています。

専門的な部分も多少ありますが、みなさんが家づくりを進めるために

様々な会社を選ぶ基準・参考の 1 つとなるバイブルとして活用してください。

生涯のライフスタイルを 描くことから始める

01



家づくりにおける8つのポイントの中で**最も重要な1つ目**は、生涯のライフスタイルを描くことです。
生涯のライフスタイルとは、難しく考えずに下記のようなことを思い描いてみましょう。

- CHECK
- ☒ その家にいつまで暮らしますか？
 - ☒ お子さんは何人の予定？
お子さんにはできるだけ巣立ってほしいのか、
それとも同居していきますか？
 - ☒ ご夫婦であれば、いずれのご両親を自宅に引き取る予定がありますか？
 - ☒ (新築と関係なく) ご夫婦で本当にやりたいこと(趣味など)はありますか？
 - ☒ 家に対して、使い勝手(機能性)・居心地(デザインや間取り)
どちらを重視しますか？

このように家づくりを始めるのにあたり、ご家族の将来にわたる現時点の考え・計画を出し合って、**価値観・考え方を整理していくこと**が大事です。

それでは、つづいてライフスタイルの描き方をお伝えしていきます。

1 ライフスタイルの描き方とは



いきなり、「ご家族の将来設計」と言われても難しいですね。

しかし、あまり難しく考えず**ご夫婦の思っていることを、パートナーへ伝えること・確認することが大事**です。

特に重要なポイントは、ご夫婦の考え方はもちろん、**お子さんと両親のことを考える部分**です。

お子さんがいる・いない(予定がある・ない)、男の子か女の子なのか、人数によっても新築の設計が変わってきます。

お子さんを将来、都会の大学に！または海外の大学に留学させたい！と、考えている方もいるのではないのでしょうか。

一方でご両親などの親族を受け入れて二世帯にされるご家庭もあります。

どうしても義理の家になると、どこか気を遣ってしまいがちになるもので、これが家づくりに関わってくるとなれば、しっかり話し合っておくべき内容になります。

そして、この本をご覧になられている方は、現在子育てに日々奮闘されているご家庭が多いはずですが、普段はご夫婦自身のことは後回しになっている方も少なくないのではないのでしょうか。

しかし、お子さんが巣立った後のライフスタイルはどうなるのか？なにをしようか？

こんなことを家づくりをキッカケに、話し合ってみてください。

2 ライフスタイルを描くことで失敗しない家づくりにつながる理由

このような「話し合い」で将来に渡ったライフスタイルを確認することが、家づくりで失敗につながりにくい理由は、「**不要なモノが見える**」からです。

間取りを最初にヒアリングする際によく耳にするのが、「なんとなく必要そうだから和室を作っておこう」というご意見。

ライフスタイルにおいて本当に必要であれば良いのですが、「なんとなく」で作ってしまってよいのでしょうか。

こういった部分でも、**価値観をお互いに共有しておくことで、ムダの削減につなげることができたり、住んでから後悔するポイントを生みにくくなります。**

まずは、お互いの今後の**ライフスタイル (= 将来設計)**の考え方を**出す・擦り合わせる作業**が、家づくりの第一歩です。



できるだけコンパクト・窓を少なく・家を四角に・でもおしゃれ

02

後悔しないための家づくりの2つ目のポイントは4つあります。

1 できるだけコンパクトに

坪単価と呼ばれる言葉があるように、家は大きくなるとその分コストを必要とします。大きな家を作っても、結局決まった場所に集まっているよね、ということはよくあります。

家を建てる場合は、「**目的に応じた必要なスペースを必要なだけ**」がもっとも、効率的に初期コストを抑えることができるポイントです。

平面図だけでは大きさのイメージがしにくいいため、モデルハウスなどを回って空間の大きさと、ご家族が必要なスペースを煮詰めていきましょう。

コンパクトな設計は後々の解説でも詳しくお伝えする、**ランニングコストの削減にも直結してくる部分**であり、**4つの中でもライフスタイルを豊かにするための重要なキーワード**です。

2 窓を少なく

理由は、**コストと防犯性**からです。

昨今、一定以上の断熱・省エネ性能が求められている中で、窓は「**熱が逃げやすい場所**」とされています。もちろん、それを補うだけの性能がある高性能窓もありますが、**壁にする方が圧倒的に安上がり**です。

また採光を取るために窓は有効ではありますが、一方で防犯上の弱点にもなります。光を取り込むのであれば、例えば人が入れないような細い窓にする、窓自体を少なくする、といったことで防犯上も有効です。



3 家を四角に

理由は**コスト**と**耐震性**の観点からです。

凹凸が多い家の場合、同じ坪数でも多くの外壁を使ったりするため、割高になってきます。

家で一番効率的に作れる形状は、正方形の総二階（1階と2階のサイズが全く同じ）と言われています。

また、凹凸がないことで建物のバランス（重心）が中心に寄りやすくなり、その分耐震性を高めやすくなることにつながります。

正方形や長方形など整った形状に比べて、凸凹が多い形状は建物を支えるための耐力壁や柱・梁などの構造躯体を強固にする必要性が高くなり、コストアップにつながっていきます。

4 小さく、窓を少なく、四角にした上で、おしゃれにするためのポイント

2つ目の最後のポイント、おしゃれにするポイントは、好みの雰囲気だけを伝えて「おまかせコーディネート」してもらうことが一番でしょう。

注文住宅であるからこそ、1から全部選びたい！と思う方が通常で、気合を入れて色々なモノ・色・素材を選びがちです。

しかし、実際できあがってみるとイメージと違った、何か物足りないといったことが少なくありません。

1～3の項目を満たす極力”スリム化”した住宅は、プランなどで特徴を出しにくくなるため、コーディネートは丁寧に作り込まないと「平凡な家」になります。

施工事例から、デザイン性がある程度任せても大丈夫そうな会社のコーディネーターさんに、細かい部分は「おまかせ」が実はちょうどいいでしょう。

同じ素材・料理でも、料亭の料理人が創った皿と一般人が創った皿の”しつらえ”は大きく異なるように、任せることができるプロにお任せしてみることをおすすめします。

吹き抜け・バルコニー・和室・大きな窓、それ全部不要です

03

3つ目は、新築時に人気の高い4つの要素を分析していきます。

結論からお伝えすると、**この4つは不要**であるという理由を解説し、代替え案もお伝えしていきます。

1 吹き抜けは不要！？



吹き抜けが不要な理由は「**断熱性と耐震性の低下**」です。

吹き抜けがあることで、リビングの空間容積が大きくなります。

リビングは家族の誰かが常駐していることが多く、その分冷暖房はしっかり管理しないといけないため、**リビングの空間が大きければ大きいほど、冷暖房にかかるエネルギーは大きくなります。**

実際に ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）などで計算される省エネプログラムにおいても、主たる居室としてリビングの大きさの容積で、年間に消費するエネルギーが大きく変動します。

また、吹き抜けがあることにより**水平面の耐力の低下**につながります。

新築時において、様々なランクの耐震計算において、吹き抜けはどの計算でもマイナスに働きます。

広々としたホテルのロビーのようなリビングは魅力的ですが、**家族の命を守る耐震性が疎かにならないように**気を付けましょう。

代替え案としては2階リビング、平屋といった選択肢があります。

天井高を単純に高くする、という方法もありますが、コストが皆さんが思う以上に掛かってくるため、天井高の高いリビングを希望される場合は、2階リビングか平屋がおすすめです。

2階や平屋であれば小屋裏を吹き抜けとして利用しやすいため、どうしても天井高がほしい、という方は参考にしてみてください。

2 バルコニーは不要！？

バルコニーとは、主に2階の窓から出入りできる場所（同義語：ベランダ）のことです。
このバルコニーが不要な理由は「使用目的が少なくなっていること」です。



部屋干し実施率の調査では、**部屋干しをする世帯が約8割**にのぼるとの調査結果も出ています。
共働き増加など社会的背景もあり、夜中に干したりする方も多くおり、バルコニーを洗濯物を干すという目的で使わなくなっている方が多くなっています。
また布団などにおいても、温風乾燥機や布団掃除機の方がダニ・ホコリ対策としては有効であり、人気も高まっています。

このような理由からバルコニー自体を設計する目的が薄れつつあり、ご家族の洗濯物を干す場所を今どうしているか？を思い返してみましょう。

バルコニーの代替案としては、「**部屋干しができるスペースを作ること**」です。

バルコニーが不要になれば、どこで干すか？
リビングで干してしまう、というのも1つの案ではありますが、少し生活感が出すぎてしまいます。
そこでランドリールームのような部屋を1つ、最小限の大きさに設置しておくといよいでしょう。
季節・天気にも左右されず、長く見れば非常に有意義な部屋となるでしょう。

また、その際には天井埋込型のシロッコ換気扇を設置し、サーキュレーターを使えるようなコンセントがあると、室内干しの湿気排出がしっかりできます。

3 和室は不要！？



和室が不要な理由は「**使用目的が少ないこと**」と「**家具を置きにくい部屋であること**」です。
昔に比べて、家に親族以外の来客がある方はかなり減っており、客間としての必要性が無くなりつつあります。

また一方で最近はゴロ寝をしたい、という意向でリビングに隣接したタタミコーナーを設ける方もいますが、ソファなどを購入し、ソファを背もたれにしてリビングで…という方が多いのではないのでしょうか。
結局は洗濯物を干す場所になっている、という方も少なくありません。

そして、畳の場合は家具を置くことができないため、部屋としての使用用途が限られてきます。
ご年配の方のリフォームでも、和室から洋室への変更は非常に多く、一般的な方であれば和室は必要なくなる可能性が高いでしょう。

将来的な視点で考えれば、**和室の代わりに1階に寝室を設ける**方が、上下移動をなくすバリアフリー性の向上、そしてクローゼットと水まわりを併設させることで家事動線の短縮にもつながります。

4 大きな窓は不要！？

大きな窓が不要な理由は「**目的を達成できないもの**」になっている可能性があるからです。

「目的を達成できないもの」とは、新築時の相談で多い“開放的な”リビングのご要望に対するものです。

大きな窓を設けたとしても、一般的なケースであれば昼夜限らず**カーテンを閉め切っていることが大半**ではないのでしょうか。

相当田舎でまわりに何も無い、もしくはインナーテラスのような高い壁で囲われている、といったことがなければ、カーテンを開け放つような開放感はなかなか難しいです。
そのことから、せっかく大きな窓を設けてもカーテンを閉め切っている時間がほとんど、では目的である開放感も得られず、後悔に繋がってしまいがちです。

LDKではなくLKという住み方、 マスターリビングという考え方

04



LDKが新築時の定番となっていますが、みなさんはダイニングテーブルを食事以外に使っていますでしょうか？
使っていない方はリビングで食事をする、反対によくダイニングテーブルを使っている方はダイニングを
リビング代わりにする、という住み方はいかがでしょうか。

この考え方は「今の家族」だけでなく、10年・20年後のリビングも考えてみるのが大事です。
お子さんが巣立ったとき、大きなリビングダイニングが必要になってくる可能性は低く、将来を見据えて2つの
部屋を1つにまとめてしまう「マスターリビング」という考え方です。

マスターリビングのメリットは大きく2つあります。
1つが、上記で紹介した「将来的にちょうどよいサイズ」であることです。
4人家族を想定した住宅では、20年もすると“今の私たちには大きすぎる”という声をよく聞きます。

また2つ目のメリットは建築費用を大幅に抑えることができることです。
将来、“今の私たちには大きすぎる”と感じている分も住宅ローンも支払っています。
ムダとまでは言わないにしても、将来を見越してコンパクト化すれば、建築費用を大幅に抑えることが可能です。

1 家は3回建てて納得できる、という理由

冒頭に触れた「家は3回建てて納得できる」という格言ですが、これは生涯において3回ぐらい家族の形態が
変化する裏付けでもあります。

そのため、1の章でお伝えした最も大事なポイントである、将来的なライフスタイルをご夫婦でしっかり話し合っ
ておくことで3回建てずとも、1回で将来にわたって後悔の少ない家づくりができるでしょう。

リビング・ダイニングの考え方のように、部屋の使い方・必要性は今だけでなく、将来の家族の形態も思い描く
ことで後悔を減らすことができます。

また、昨今の窓は性能が良くなっているとは言え、窓のサイズが大きくなると熱の出入りも多くなり、同時に
性能を求めてしまうとコストも大幅に上がってきます。

そのため、窓を設ける目的や、窓を開け放てるような環境かどうか、などを冷静に考えていくと窓は最小限でも
良くなってくるケースが多いです。

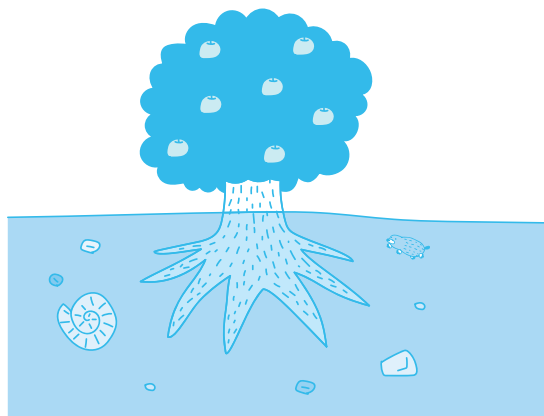
その代替案としては、縦滑りの窓を適所に設けることです。
採光・通風といった機能的な目的は確保でき、さらにおしゃれなデザインを設計しやすくなりオススメです。

ここで紹介した新築時に人気の4つの要素が絶対に必要ないと断言するわけではありません。
大切なのは「みんなが付けているから」という概念にとらわれず、それぞれのメリットとデメリットがあることを
十分に理解した上で、本当に必要なものだけを選ぶことです。



総コスト・生涯コストという 考え方を持つ

05



今、見えているコスト

・ 建築費用

今、見えていないコスト

・ 光熱費
・ メンテナンス費用
・ 固定資産税

買い物には大きく分けて2つのタイプがあり、例えばコップのように購入金額以上のコストがかからないものと、車のように維持費がかかるものがあります。

住宅は車のように、維持費がかかる買い物であることを知っておきましょう。

新築を建てる時、どうしても建築コストに目がいきがちですが、そのコストは言わば氷山の一角で、**実はランニングコストとして掛かってくるコストの方が大きくなりがち**です。

建築費用にランニングコストを合算したコストを、総コスト・生涯コストと言います。

家で掛かってくるランニングコストを、以下で見えていきましょう。

1 光熱費

生涯ローンとも言われている**光熱費**です。

昨今は世界的なエネルギー価格の上昇に比例して光熱費も無視できるようなコストでなくなっています。

太陽光発電システムや蓄電池などを併設することで、最初のコストは増えてもランニングでかかってくるコストを圧縮することができます。

2 メンテナンス費用

家は定期的に**メンテナンス**が必要です。

外壁や屋根の塗り替え（防水上必要）、水まわり設備の更新、床やドアの老朽化、給湯器や冷暖房機器などの更新がかかってきます。

特にコストがかかる部分は、外壁と屋根になっていますが、外壁・屋根に関しては最初にグレードの高いものを選んでおくことをおすすめします。

一般的な35坪の住宅であれば、外壁・屋根の塗り替えで1回にかかる費用は約150～200万円です。

スタンダードな外壁や屋根の場合、これが10～15年スパンでくるため、40年で考えるとそのコストは最大で800万円にも上ります。

一方、初期コストが100～200万円高くても30～40年、**塗りが不要な外壁材を選んでおく**と結果的に安く済みます。

このようにメンテナンスに関しても、**初期コストだけではなく生涯に渡って、掛かると想定されるコストをあらかじめ考えておく**とよいでしょう。



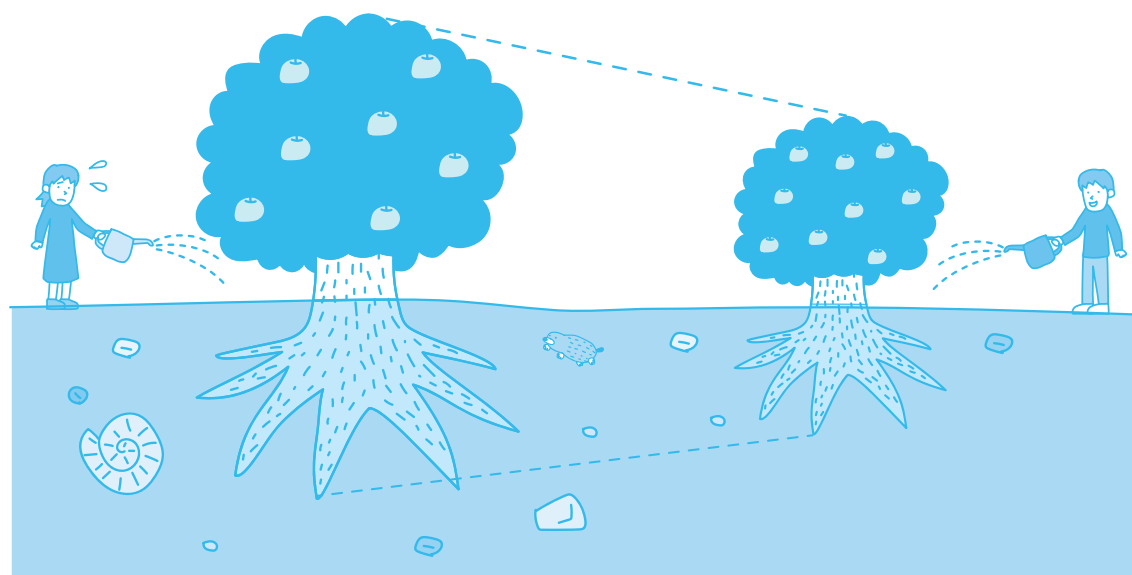
3 固定資産税

最後は固定資産税です。今まで賃貸にお住まいだった方は、イメージが付きにくいかもしれません。

しかし、自分の家を持つと必ずかかってくる固定資産税です。

家の大きさや、建築する場所、工法などで変動してきますが、一般的な家でも十数万円～のコストが毎年掛かってきます。

経年と共に固定資産税も下がってくるとは言え、住宅ローン控除の金額が丸々持っていられるようなイメージです。



コンパクトな家にする＝生涯コスト全体を圧縮する

そして、この 3 つに共通していることは、「家が大きいと掛かってくる全体の費用も増えること」です。家をコンパクトに設計することで、インイシャルコストだけでなく、ランニングコストも含めた生涯コストを圧縮することができます。

断熱等級と耐震等級の意味だけは絶対に理解しておこう

06

ここまで家をコンパクトに設計することが効果的であることをお伝えしてきました。つづいては、住宅を考えるうえで必ず理解しておきたいポイントである断熱と耐震の 2 つについて解説していきます。この 2 つについては、**住宅会社によって言うことが“違う”**ため、ご自身でしっかり勉強されることをおすすめします。

1 断熱等級とは

断熱性能は、**その家からどれだけ熱が入りやすいか？**を平均値で表した、**UA 値**（ゆーえーち）で表されます。

また、この UA 値ごとに断熱等級というランクがあります。（等級の数字が上がるにつれ断熱性が上がる）

断熱等級	UA 値（6 地域）	備考
断熱等級 7	0.26 W / m ² ・K	HEAT20 G3 相当
断熱等級 6	0.46 W / m ² ・K	HEAT20 G2 相当
断熱等級 5	0.6 W / m ² ・K	ZEH・令和 4 年以降長期優良住宅相当
断熱等級 4	0.87 W / m ² ・K	平成 28 年 省エネ基準
断熱等級 3	1.54 W / m ² ・K	平成 4 年 省エネ基準
断熱等級 2	16.7 W / m ² ・K	昭和 55 年 省エネ基準
断熱等級 1	-	無断熱

こちらの表が、国で設定されている断熱の等級です。

結論、本州の一般地域でのおすすめは、断熱等級 5 前後の断熱性能とされています

ZEH レベルの断熱性能があれば、最低限の快適性も確保でき、同時にコストバランスがよいレベルとされています。

昨今は超高断熱住宅も流行っており、UA 値を極限まで高めることに価値があると勘違いされがちですが、ご自身が住んでいる地域に合った断熱性能を選ばないと「過剰スペック」になります。



【引用】“冷暖房設備に関する感想” 一般社団法人 環境共創イニシアチブ 2022-12-29
https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/assets/pdf/general/housing/zeh_conference_2019.pdf

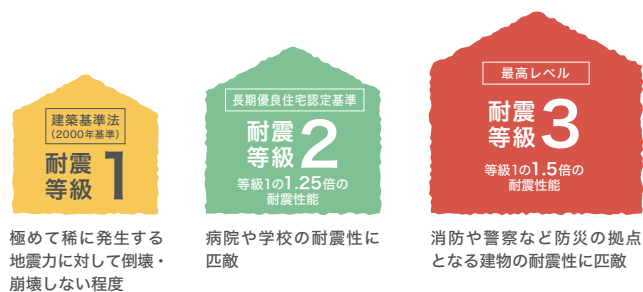
上図は、ZEH 住宅補助金を受けた家庭からのアンケート調査結果ですが、「冷暖房設備の効きが悪いと感じた割合」を住宅の断熱性能別に表した表です。

この表を読み解くと、**超高断熱にしても冷暖房の効きの良さを体感で差を感じることができない**ことがわかります。

北海道で家を建てる場合はこの限りではありませんが、気候状況にあった「ちょうどいい断熱性能」をおすすめします。

2 耐震等級とは

耐震等級は、その名の通り耐震性を表す指標で、3段階の指標があります。



耐震等級 3	建築基準法の1.5倍
耐震等級 2	建築基準法の1.25倍
耐震等級 1	建築基準法を満たす (震度6強～震度7程度の地震に対して倒壊・崩壊しないこと、震度5程度の地震に対して損傷しないこと)

最低限のレベルでも、建築基準法をクリアしているから大丈夫じゃないの？と思う方も多いでしょう。

しかし 1 回目の揺れでは倒壊・崩壊しなかったとしても、繰り返しの揺れが発生した場合に 1 回ごとに損傷を負えば結果的には倒壊ないしは修復不可能なレベルまでの損傷につながる可能性があります。そんなに大きな地震が何度も起きるの？という疑問が出てくるかもしれませんが、事実 2016 年の熊本地震においては震度6以上は7回、震度5以上を含めると21回の揺れが観測されています。

断熱とは異なり、耐震については**家族の命に関わる**ものであり、**耐震等級3で建築することを強くおすすめ**します。

耐震に関しては奥深い分野でもあるため、細かい説明は割愛しますが、まずは耐震等級3で建築することで、後々の災害時に良かったと思うはずです。

3 断熱等級と耐震等級について理解しておくべき理由

断熱と耐震に関しては、最低限の等級のみが建築基準法で設定されています。(断熱は努力義務) そこに住宅会社ごとの「意向」が入ってくると、様々な謳い文句に変換されるリスクがあります。

例えば耐震等級3を取得しようとする、吹き抜けなどは不利に働くため、デザイン重視の会社であれば耐震に関する話はあえて積極的にはおすすめしないでしょう。それは自社の得意分野が失われるから、という**住宅会社側の都合**であり施主様のことを考えた結果ではありません。

もちろん、施主様が耐震性の重要性を理解した上で、それでも耐震性を犠牲にしてまで吹き抜けが絶対に欲しい！というのであれば、それは否定しません。しかし、このように断熱と耐震に関しては、**自分の価値観に合った家づくりをするために、メリット・デメリットをしっかりと理解して、家づくりをすすめる必要がある**と言えます。

ZEHでは無いSES（セーブエネルギー） という考え方を持つ

07

7つ目は省エネ性能の考え方についてです。

ZEH（ゼッチ）と呼ばれる考え方が、現在の住宅業界の主流ですが、SES（セーブエネルギー）という考え方も1つの参考としてください。

1 ZEH とは



ZEH は、断熱性能を上げて省エネ設備を導入、そして太陽光発電を導入することで、年間で使うエネルギーを実質ゼロにする家のことです。

少し詳しく解説すると、断熱性能は先ほど解説した断熱等級 5 以上、省エネ性では一次エネルギー消費量（＝年間で使うエネルギーを試算するプログラム）を基準から 20%以上削減することが基準です。

また太陽光発電システムは、おおむね 5kW ～ 6 kW 以上搭載すると、年間で使うエネルギーより、創るエネルギーの方が多くなります。

このように、ZEH は断熱・省エネ・創エネの 3 つで構成する考え方です。

太陽光発電システムや蓄電池などを併設することで、最初のコストは増えてもランニングでかかってくるコストを圧縮することができます。

2 SES（セーブエネルギー）という考え方



ZEH に対して、SES はさらに自然のエネルギーを活用したり、ミニマムな生活をする必要以上にエネルギーを使わなくても快適に過ごせる、という考え方です。

ZEH と同じように断熱性能は一定以上に高める必要がありますが、先述したとおり快適性の限界でもある断熱等級 5 または 6 で十分です。

断熱性能は窓を小さく・少なくすることでコストをかけずに、高い断熱性能に仕上げていきます。

そして、省エネ設備を充実させ、ランニングコストを圧縮していきます。

特に住宅で多くエネルギーを使う給湯と暖房に関しては、効率の良いグレードの高いタイプを選ぶことで、将来的なコストを圧縮できます。

また、窓を少なく・小さくと言いましたが、南側は大きな窓を設けておくと、冬は陽のあたたかさを取り入れることができる一方、夏は日射が入るため庇や屋外ルーバーなどを併設して日射を遮ると、自然エネルギーを効果的に活用できます。

さらに、間取りをコンパクトにすることで、エネルギーの消費を抑えます。

コンパクトな家は家族が 1 か所にあつまりやすいため、その分光熱費も掛かりにくく、SES はまさに究極のミニマリストと言えるのではないのでしょうか。

小さな家で生活の質を上げることが 後悔しない最大の秘訣

08



最後は「**小さな家で生活の質をあげる**こと」を提案いたします。

ここまで、将来のことを考えながらコンパクトに設計するメリットをお伝えしてきました。

コンパクトな家のメリットは、イニシャル・ランニング共に家にかかるコストを最大限圧縮できることです。

ここで浮いたお金を、様々な家族の思い出・趣味などに使っていただきたいと考えています。

家が大きいことは自己満足でしかなく、その自己満足も本当に家族全員が満足しているかは疑問です。

それより、家族でどこかに旅行をしたり、趣味などに使ってもらう方が有意義であると考えています。

もちろん、住宅は家族を守るための大切なものですから、最低限必要な部分は確保していただきたいです。

しかし、**必要以上のこと・ものを削減していくことで、本当に暮らしやすい・ライフスタイルが豊かになる家になる**でしょう。

そういった生活スタイルであればコンパクトな家でも、生活の質・幸福度は高いものに繋がっていくでしょう。

後悔しない家づくりをするためには、まずは 1 の章でお伝えしたように、この本をもとに家族の価値観を長い目で話し合ってみてください。

この本が、みなさんの幸せな家づくりの第一歩になることを心から願っております。

